

科目コード A&F021225

科目名	リスクマネジメント Risk Management		選択	2 単位
学期・曜日・時限	春・土・集中	-	-	-
担当教員名	大森 英直	e-mail		
講義形式	ハイフレックス（教員は学外から講義を実施するが2回程度は講義室から行う場合がある。）※対面履修生は全回講義室から参加			
<p><講義の概要と目的></p> <p>経営においては攻めだけでなく守りも重要だが、その視点が欠落していたため、事業継続が困難となった組織の事例は多数ある。よって、経営者にはリスクマネジメントの知識・理論の習得は不可欠であると考える。</p> <p>リスクマネジメントの国際標準規格である IS031000 のフレームワークをベンチャー企業や中小企業でも活用できるように分かりやすく解説し、講義内でリスクマネジメントの実践マニュアルが策定できるよう進めていく。また、起業や新規事業に必要な事業計画書においてもリスクマネジメントの要素も盛り込み、信頼性の高い事業計画書が策定できるようにする。</p> <p>さらに、リスクマネジメントの理論とマーケティングの理論を融合し、リスクマネジメントが企業の信頼性の向上や売上にどのようにつながっていくのかまで理解を深め、経営の実践において役立つ知識を修得する。</p> <p><到達目標></p> <p>リスクマネジメント理論・マネジメント理論・マーケティング理論を修得し、実務においても実践できるようにする。</p> <p><アクティブ・ラーニング要素></p> <p>実際起こった企業の事故・不祥事例などをテーマに、毎回授業内でみなさんとアクティブ・ラーニングを行い、対話（dialog）というコミュニケーションスキルを修得する。また、机上演習にてアクティブ・ラーニングを行い、ロジカルシンキングの修得も目指す。</p> <p><ゲストスピーカー招聘></p> <p>15 回目の最終回に、リスクマネジメントを実践している企業経営者から、リスクマネジメントによる財務効果（特に売上高に対して）とブランディングにおいて、どのような影響を与えているのかを講義いただく予定である。</p> <p><講義計画></p> <p>講義計画は以下の通り。ただし講義の進行状況によっては、講義計画を若干変更する場合がある。</p> <p>1 回目：リスクとリスクマネジメントの理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：リスクとは何か、経営においてリスクマネジメントがなぜ必要なのかを考える <p>2 回目：リスクコミュニケーションとリスク教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：リスクコミュニケーションとリスク教育について学ぶ <p>3 回目：リスク教育演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：リスク教育による対話（dialog）の習得 <p>4 回目：国際標準規格 IS031000 の概要、リスクマネジメント方針の策定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：IS0310000 の全体像の理解、リスクマネジメント方針の策定方法、4C 分析と SWOT 分析から組織の現状を把握する方法と経営戦略の策定方法を学ぶ 				

5 回目：リスクの発見

・要点：リスクの洗い出し、リスクの特定およびリスク分類方法について学ぶ

6 回目：リスクの算定、リスクマップ

・要点：リスクの算定とリスクマップ作成方法を学び、経営の見える化を行う

7 回目：ケーススタディ① 大規模食中毒事件（失敗事例を学ぶ）

・要点：企業の事故・不祥事例をテーマにディスカッションを行う

8 回目：リスク対応（1）

・要点：重要リスクの被害想定シナリオを作成する

9 回目：リスク対応（2）

・要点：重要リスクの目標設定と具体的リスク対策を検討する

10 回目：リスク対応（3）

・要点：リスクマネジメントプログラムの策定、モニタリング及びレビューについて学ぶ

11 回目：ケーススタディ② 目薬異物混入事件（成功事例を学ぶ）

・要点：企業の事故・不祥事例をテーマにディスカッションを行う

12 回目：危機管理

・要点：米国で多くの組織が採用している危機対応組織「インシデントコマンドシステム（ICS）」、危機発生時の広報・クレーム対応の実践知を学ぶ

13 回目：BCP（事業継続計画）、災害・事故・不祥事による財務インパクト

・要点：BCP（事業継続計画）、リスクファイナンスについて学ぶ。実際に机上演習を行い、効果的な社内のリスクコミュニケーションの進め方を習得する

14 回目：リスクマネジメントとCSR（企業の社会的責任）、コンプライアンスの関係性

・要点：リスクマネジメントとCSRとの関連性、CSRとコンプライアンスの違いについて学ぶ

15 回目：まとめ

・要点：リスクマネジメント活動を社内活動で終わらせるのではなく、ブランディングにも活用し、企業の信頼性を向上させることができることについて学ぶ。また、それを実践し成功に導いている中小企業経営者を、ゲストスピーカーとして招聘し講義を行う（予定）

<講義の進め方>

担当教員が配布する資料をもとに、講義とディスカッションを行う。

<事前事後学習内容>

講義3回目、7回目、11回目終了後に課題を出すので、議論が出来るように課題（レポート）を行うこと。

<予習・復習時間>

各回の予習・復習には計4時間相当かかると想定され、詳細については講義時に指示をする。

<教科書及び教材>

講師作成のテキストと参考資料を教材として使用する。なお、テキストと参考資料を Teams ファイル内に共有するので、講義前にダウンロードしておくこと。

<参考書>

・東京海上日動リスクコンサルティング株式会社（2012）「図解入門ビジネス最新リスクマネジメントがよ〜くわかる本第二版」、秀和システム 2,200円＋税

- ・金井壽宏（2006）「働くみんなのモチベーション論」、NTT 出版 1,800 円＋税
- ・笠原英一（2019）「改訂版 強い会社が実行している「経営戦略」の教科書」、KADOKAWA 1,600 円＋税
- ・加藤晃（2018）「CFO 視点で考えるリスクファイナンス」、保険毎日新聞社 2,700 円＋税
- ・危機管理研究会（2012）「ケースブック あなたの組織を守る危機管理」、ぎょうせい 4,762 円＋税

<成績評価方法>

欠席 6 回以上は成績評価しない。

授業貢献度 50%＋課題レポート（3 回の小課題 5%＋期末課題（最終レポート）45%）50%で評価する。

<課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法>

最終課題レポートについては、担当教員から Teams のチャットにて全体に対し総評を行い、またレポート提出者全員に個別にフィードバックを行う。

<履修条件>

特になし

<ディプロマポリシーとの関連>

アントレプレナーシップ発揮に必要な専門的かつ実践的知識の学修に該当

<録画映像の視聴> 可

<オフィスアワー>

非常勤のため、Teams のチャットで常時受け付ける。また、講義終了後も受け付ける。

<その他>

ディスカッションでは、積極的姿勢と思考された意見・発想を評価する。

毎回講義終了後に、講義内で紹介した参考書籍を teams で案内し、受講者の自習及び探求心を促す。なお、紹介参考書籍に対する意見や感想、質問についても teams のチャットで受け付ける。